

## 受動喫煙のリスクの大きさ —日常生活で遭遇するリスクとの比較—

1人以下	環境汚染許容基準
0.05人	胸部直接レントゲン撮影1枚で肺がんり患
300人	ディーゼル排ガスでの肺がんり患(都心)
460人	アスベスト破壊住宅での肺がんり患
700人	受動喫煙による肺がん死
1000人	交通事故死
5000人	受動喫煙死

10万人のうち  
一生涯に  
何人がその  
リスクで死ぬか

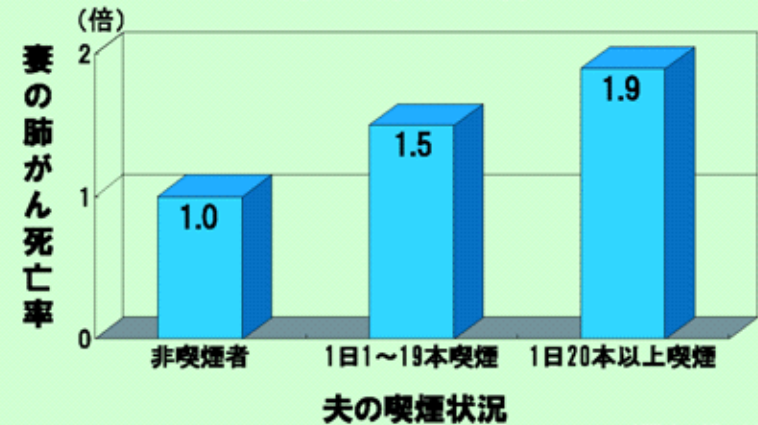
(松崎道幸、臨床科学34巻2号、1998年及び月刊保団連688、2000年)

© 厚生労働科学・中村班 2002

### 受動喫煙のリスクの大きさ

- 大気汚染やダイオキシンなどの環境汚染物質の許容基準は、10万人が一生そのリスクにさらされても、それによる死亡者が1人以上出ないこととされている。
- 受動喫煙による生涯リスクは、この許容基準の5000倍高く、基準をはるかに上回っている。
- 受動喫煙による肺がんリスクは、10万人当たり700人で、ディーゼル排ガスやアスベストのリスクに比べても高い。
- 受動喫煙による肺がんリスクを胸部直接レントゲン撮影のリスクを参考までに比較すると、受動喫煙のリスクは約1万4千枚分のレントゲン撮影を一生の間に受けるリスクに相当し、これはたとえば70年間にわたり2日に1枚ずつレントゲン撮影を受ける勘定になる。
- このように、環境タバコ煙は有害性の強い環境汚染物質であり、社会として規制が必要な有害物質であることがわかる。

## 夫の喫煙と妻の肺がんの死亡率 (妻は非喫煙者)



(平山 雄、1990)

© 厚生労働科学・中村班 2002

### 夫の喫煙と妻の肺がんの死亡率(妻は非喫煙者)

- 家庭は職場と並んで一生のうち、長い時間を過ごす場であり、家庭内の空気環境がタバコで汚染されると、タバコを吸わない家族の健康に深刻な影響を与えることが明らかになっている。
- 長年、家庭で受動喫煙にさらされると、肺がんだけでなく、心筋梗塞や副鼻腔がんなどの重大な健康障害が生じるリスクが高まることが明らかになっている。
- 平山らの26万人の追跡調査によると、家庭でタバコを吸う夫を持つタバコを吸わない奥さんが肺がん死リスクは、夫がタバコを吸わない場合に比べて、夫が1日1~19本の喫煙者では1.5倍に、1日20本以上の喫煙者では1.9倍になると報告されている。
- アメリカ環境保護局は、1992年に世界各国で行われた30の疫学研究をレビューした報告書を出版した。それによると、受動喫煙は非喫煙者の肺がんのリスクをアメリカで20%、日本で40%高めていると結論づけられている。
- アメリカ環境保護局は、この研究結果を踏まえて、1992年、環境タバコ煙を「A級発がん物質」(人にがんを起こすことが確証された物質)と認定した。